

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：アド・アール株式会社
定 価：一部 30円



2016年12月20日
第**403**号

「みんなでつくる」
地域福祉のこころ
理事長 稲松 義人

浜松特別支援学校で「みんなの学校」というドキュメンタリー映画の上映会があるという話を聞いたので、もしお許しいただけるなら一緒に見せてもらえないだろうかとお願ひし、教員の皆さんに混じって念願の映画を鑑賞することができた。大阪市立大空小学校でのインクルーシブ教育、特別支援教育の実践をリポートした映画で、かねてから見たいと思っていた。

小羊学園でも障がいのある子どもたちの支援をする中で、地域のいくつかの学校と接点があり、よりよい連携を模索してきた。文部科学省が打ち出した「特別支援教育」の考え方は理解できるが、現実には、地域の学校の中で障がいのある子がその「障がい」に配慮されつつ、同じ地域の子ともたちと共に育つという理想からは遠いと感じていた。映画を見るだけで大空小学校のすべてを評価することはできないだろうが、そこには特別支援教育がめざすべき実践のモデルが確かにあると感じられ、大いに感動して勇気を与えられて帰ってきた。

大空小学校の実践を牽引しまとめてこられたのは、開校から9年間校長をされた木村泰子さんであろう。

木村さんは、著書の中で「子どもたち

が、社会で生きてはたらくための力を獲得するには、学校は、将来子どもたちが実際の社会に出ていく前に、たくさん失敗し、やり直しができる小さな社会でなくてはならないのです。」と主張しておられる。ここから3つのことを教えられたように思った。

一つ目は、学校教育を目的化していないこと。学校での教育は、「子どもたちが社会で生きてはたらくための力を獲得すること」が目的で、そこで目に見える成果として学力をつけることが目的ではないということだ。福祉の仕事も保護したり、育成したり、介護をすることが目的ではなく、日常生活の中に安心できる居場所を見つけ、生きる喜びを取り戻し、自ら生きる人になれるようにすることが目的だということを再確認したいと思った。

二つ目は、学校を地域から閉ざされた教職員と子どもたちだけの社会ではなく、保護者や地域の人たち一人ひとりが一緒につくっていく学校という地域社会と位置づけて開校しておられることだ。校門の壁には、「みんながつくる みんなの学校 大空小学校は 学校と地域が共に学び 共に協力しあいなから『地域に生きる子ども』を育てている学校です」と掲げられているという。福祉の仕事もこれまでもどうしても施設での支援が中心になり、そこでは利用者と職員の間でされた社会になってしまいがちの

ような気がする。同じ地域の人たちが利用する地域の福祉施設として、ご家族や地域の人たちも一緒にそこでの福祉実践をつくっていくという発想に欠けていた。地域福祉でよく言われる「ボランティア」も施設の都合に合わせてお手伝いくださる人で、そこで施設利用者への支援の一旦を担ってくださる方という認識は薄かったのではなからうか。

三つ目は、「失敗しても、やり直しができる」というところだ。みんなと一緒につくっていくという発想に立てば、利用者だけでなく、精一杯取り組んでも思うような成果が獲られない職員もやり直しができるといえることが大切である。「失敗」と「不誠実」は違う。不誠実な態度は許されないだろう。反省してもらわなければならない。しかし、精一杯取り組んでも思うような結果が得られなかったとしても、みんなが支え、一緒に考えていくことが大切になる。そのために管理的な立場の者は助言こそすれ、失敗を責めてはいけないと思った。

精一杯努力するとき、たとえ失敗してもそれが許されるならば、そこでは安心感をもつことができる。また、安心が感じられれば、再びチャレンジしようという勇気が得られる。同労者をゆるすことができる優しさもそこから生まれるような気がする。そんな人たちによって、やさしくて平和な社会がつくられていくのだと思う。

地域の中で暮らし

グループホームの暮らし

ノーマライゼーションが叫ばれて早半世紀、近年はソーシャルインクルージョン（社会的包摂）が主流になる中、地域の中に溶け込んで生活できるグループホームは、入居者にとって「我が家」であり、自己実現の場でもあります。今回は、三方原地区の4ホームの暮らしをご紹介します。

「4つのホームのこれまで・これから」

温心寮サービス管理責任者

白尾早織

平成26年6月に三方原地区4つめのグループホームすずらんがスタートし、2年が経過しました。これまで利用者の住まいとしての建物の老朽化への対応や消防設備の設置のために平成23年度に温心寮、平成24年度にあゆみホームの移転新築を行ってきました。それぞれの住まいづくりを利用者の皆さんの笑顔を想像しながら行ってきたことで、これら3ホームの生活環境による負担はとてもなく、新居での生活をスタートされた皆さんの生活をいかに充実したものにすることが支援の課題となります。これらの経験を踏まえて消防法改



正によるスプリンクラーの設置義務への対応も含め、老朽化したひだまりを今年度事業で温心寮の増築として移転することとしました。これにより来年度からはすべてのホームが生活環境への課題に対する改善が図られることになりました。また、これまで三方原地区のグループホームの課題として挙げられていた環境にもつながり、緊急時の迅速な対応や、より手厚い支援体制を整えることができます。安心安全な生活への支援はもちろんですが、一人一人の生活がその人オリジナルな地域生活となるようきめ細やかな支援を目指してきました。これからも利用者皆さんの生活の充実について考えながら、まさしく「オーダーメイドな支援」を目指していきたいと思

「望む暮らし」

温心寮主任 小梢樹里

温心寮

温心寮には男性3名、女性3名が暮らしています。お喋りが好きな方が多く、とても賑やかな生活を送っています。月に1回、休日に利用者会議を行い、その月の予定や買い物に行ったら何を買いたいか、おやつ作りは何にするかなど皆さんの希望について話し合います。すぐに実現できないこともあります。なるべく早く対応できるように心掛けています。また行事やイベントが好きな方も多いため、現在はクリスマス会の話でよく盛り上がっています。

今年64歳になったSさんは、近隣にある介護保険外デイサービス根洗荘を利用し始めました。新しい環境にもすぐに馴染むことができ、ゲームやお買い物、外食などを楽しんでおり、「友達ができたい」と毎週水曜日のデイサービスを楽しみにしています。また移動支援も利用し始め、ヘルパーさんとバスに乗って買い物へも行くようになりました。

高齢の利用者も増えてきましたが、いつまでお仕事を頑張るのか、日中どのよう過ごすのかがいいのかなど、ご本人の気持ちや尊重しながら体調面についても考慮していきたいと思



ひだまり

現在、刑部地区にあるひだまりは男性2名、女性3名の5名が生活しています。

10月には、利用者5名と職員2名で刑部地区で行われたバーベキュー親睦会に参加させていただきました。なんとなく私たち自身が勝手に地域の方との距離を感じてしまっていました。地域の方から「みなさんの名前を覚えてくださいますか」と言っていたら、みなさんにも嬉しく思いました。地区のみなさんに声を掛けられ、参加したひだまりメンバーもとても楽しそうな様子でした。特に男性のバイトさんといつも大はしゃ



ぎで遊んでいるKさんは、同世代の地区の方々を肩を組んでカラオケに参加したり、持っていた大好きな女優さんの写真を見てもらったり、お酒をすすめてもらったりたくさんコミュニケーションをとることができ、いつも以上に楽しそうな笑顔で参加することができました。

障がいのある方が地域で暮らすというのを特別なことのように感じていたのは、もしかしたら私たち自身だったのかも知れないと、改めて地域で暮らすということを考えてことができた時間でした。来年度には温心寮の増築として移転することになってしましますが、あと数か月、刑部地区での生活を楽しみ、ご近所の方との関わりも大切にしていきたいと思えます。

あゆみホーム

あゆみホームには男性4名、女性3名の計7名が暮らしています。発作のある方もいるため夜勤体制を置き、朝夕には基本的に職員2名で支援をしています。夜勤体制になったことで夜の支援に少し余裕ができ、アルバムを見たり歌を歌ったりマッサージをしたり一緒にテレビを見たりと、フリーの時間が今までよりも充実したものになったのではと感じています。

また、今年からスタートした生活介護の『風の丘』に、あゆみホームからは女性2名が通い始めました。今までは違うメンバー・違う場所での活動に本人たちもすぐに慣れ、今では他の方の迎えが先に来ると、早く行きたくて自ら玄関までやってきて出勤の準備をすることもあります。

今年の5月にはお誕生日の外出で足湯に行ってきました。隣で足湯をさされていたご夫婦にも「気持ちいいですね」と声を掛けていただいてリラックスして足湯を楽しむことができました。帰りにはカフェに寄ってケーキを食べ、ささやかですがお誕生日のお祝いをしてきました。

このように、たまにお出掛けする機会を楽しみしながら、日々の生活や活動にも意欲的に取り組むことができるようサポートしていけたらと思っています。



すずらん



平成26年6月にスタートしたすずらんには男性4名、女性2名のグループホームです。数年前からミントの家へバスに乗ってお仕事に行っているHさんは、ミントの家に好きな職員もでき、今年もはりきって通っています。

来年度に新しくひだまりが温心寮に隣接した形で移転することに伴い、温心寮の居室の中にトイレとお風呂がある部屋を作ってもらうことになっていて、Hさんはここに引越す予定です。

ケーキ屋さんになりたい、スマホが欲しい、結婚して子どもが欲しい、飛行機に乗りたい、アパートで一人暮らしがしたい...と、たくさんの夢があるHさん。



去年は年に1度の旅行で飛行機に乗って福岡へ行き、ホテルのシングルルームに1人で宿泊をしました。今年に入ってからはお料理教室に通い始めてケーキ作りを体験しています。少しずつではありますが、Hさんの夢を実現できているのではないかと考えています。アパートで暮らすことはなかなか難しいですが、この新しい引越先で、少しでもHさんの理想に近づけられるように考えていきたいと思っています。

利用者の希望のすべてを私たちは理解できているわけではなく、すべてを叶えることは難しいです。しかし、できる限り気持ちに寄り添い、本人の意思を尊重しながら支援していきたいと思っています。

小さな親切運動

静岡銀行
つばさ静岡

11月26日に、今年も静岡銀行の榛原支店・流通センター支店の皆様に「小さな親切運動」で奉仕作業を行っていただきました。日頃いき届かない施設の外庭を綺麗にさせていただきました。毎年の、奉仕作業に感謝します。



外庭の清掃、感謝です！

アトリエとんから 開催 支援センターわかぎ

11月25日～27日に浜松市中区鴨江のアートセンターで「第28回自分流展」に機織りグループ「アトリエとんから」が出店し、地域の皆様と交流してきました。



浜松中区・南区の土地情報下さい

小羊学園では、近い将来に浜松市中・南エリアの拠点整備を検討し始めたところです。しかし、施設整備の財源が厳しい現状です。土地を購入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いで、休閑地等を無償で貸与くださる方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

・候補地

浜松市中区・南区

・土地条件

500坪～1000坪程度
宅地／農地／雑種地問わず
隣接して6m道路
電線・水道管近くにあれば◎

・貸与条件

可能であれば無償
貸与期間、固定資産税免除
建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

○窓口

小羊学園法人本部 稲松・池谷
053・584・3337



小羊学園のあゆみ⑤ ～学園からお散歩へ～

この写真は、小羊学園開設初期の散歩風景です。引率しているのは、山浦先生です。未舗装の通路を歩き、園の周囲をお散歩していました。時代を感じる、のどかな写真です。



平成29年度新採用試験 二次募集

社会福祉法人小羊学園では、平成29年4月採用の新規職員採用の二次募集（2月初旬採用試験予定）を行います。県内の福祉系学校等にご案内しますが、法人ホームページでも掲載します。福祉の仕事に興味のある方、お知り合いで福祉の仕事に就きたい方等に周知くださると幸いです。

編集後記

この号が、皆さんのお手元に届くのは、年末か新年はじめ頃か。今年を振り返ると、4月の熊本地震や、夏の北海道への台風上陸など、改めて自然災害の恐ろしさや、備えの必要性を感じた年であった。また、7月の相模原の障害者支援施設での殺人事件は、当事者家族や、私たち福祉事業者者に大きなショックを与えた。来年は暗いニュースではなく明るいニュースが絶えない、みんなが幸せな年になりますように！

本格的な冬将軍が到来します。インフルエンザなどにかかりませぬよう、皆様どうぞお身体ご自愛ください。

小羊学園を支える会

2016年度 寄付金報告

11月 受付分 155,000円 (12件)
累計 3,104,042円 (173件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。

下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337